



▲アトリエ



▲革細工



▲籐細工



▲和紙工芸

## 作業療法プログラム

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
午前	和紙工芸	籐細工	囲碁・将棋サークル	書道	革細工	映画
	カラオケ	卓球・バドミントン	カラオケ	ソフトバレーボール	ゲートボール	□オープン
	生活支援グループ	アートグループ	導入プログラム	回想法小グループ	音楽療法②	■セミクローズド
	手工芸2病棟			グループワーク1病棟		■クローズド
午後	寺子屋	ワープロ教室	ワープロ教室・上級	絵画サークル	手芸	■病棟
	にれの会	お料理の会	室内レク6病棟	実践料理の会	バーバルグループ②	
	手工芸7病棟	音楽療法①	室内レク体育館	ビデオの会	室内レク2病棟	
	スポーツ	バーバルグループ①	季節行事	回想法レク	音楽レク7病棟	
				書道7病棟		

い、いつでも出入りできる気軽さが緊張を和らげてくれます。

▼セミクローズドグループ：固定メンバーの他に、少数のメンバーの出入りがあり、継続していくプログラムです。革細工、和紙工芸などの手工芸の他に、書道、料理教室、ワープロ教室などがあります。作品を完成させる達成感や満足感を味わえ、作業や道具の貸し借りを通して、いつもの中に、自然にコミュニケーションをとることが出来ます。

▼クローズドグループ：メンバーを固定して行います。音楽療法や話し合いの会、回想法などがあります。同じメンバーで共通の目的に向かっているという安心感が持て、自分の考え方や感情を表現することで、気持ちが安定し、自信につながり、人づきあいが上手になっています。

作業療法の目的や内容は、その方の病気や障害の状態、回復過程、生活環境、個々人の志向性などにより異なります。作業療法スタッフは、それらを総合して、利用者と共に目標を設定し、作業内容を決め、意欲を引き出していく。さらに、目標が達成され、効果が実感できるよう、活動と共に見守りながら、サポートしています。

特に精神科では、活動による身体の意識化は、一時的混乱から自分を取り戻す糸口となります。途中何度も利用者に合わせ、目標を修正し、自分らしい生活ができるよう自指していきます。作業療法士は、グループを育て、また利用者個々の思いを汲み取り、生活を多面的に援助していく専門職です。



## これからのかの作業療法

当院では、多くの利用者が生活の場となる各病棟においても、作業療法の視点を生かし、利用

## さっぽろ香雪病院

# もっと精神科作業療法を楽しもう

当院の作業療法は、入院療養中及び外来通院の方を対象に、「人づきあいがうまくなりたい」「退院後の生活が心配」など、個人の目標や目的に合わせて、様々なプログラムを行っています。



作業療法における作業とは、人が生活の中で行う行為全てを包含しています。そこには、生きるために必要な身辺処理や生活管理、家事、仕事、遊び、様々なコミュニケーション、そして休養も含まれます。作業療法プログラムには、それら要素が少しずつ盛り込まれています。作業を通して自分自身を知り、病気や障害によって損なわれている部分を補いながら、健康な部分に働きかけていきます。

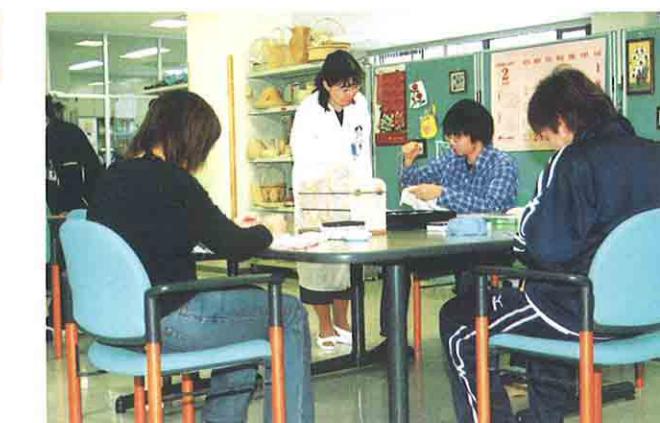
## 作業を通して

## 作業療法の一歩

わが国に初めて作業療法士（以下、OTR）が誕生したのは、1966（昭和41）年、以来36年が経過しました。当院での歴史は新しく、1996（平成8）年、病棟内に作業療法室を設置し、OTR1名、作業療法助手（以下、OTA）1名で、手芸・革細工・書道などを手探りで始めました。他スタッフからは遊んでいるように見られることもあり、いかに作業療法の目的や効果を伝えられるかに骨を折った時期でもありました。

平成10年新棟完成に伴い、新たに作業療法室が設けられ、充実した治療環境の中で活動範囲を広げ、平成12年「リハビリ科」として独立。平成15年2月現在、医師1名、OTR7名、OTA3名で、看護スタッフ、栄養士、臨床心理士、書道・籐細工講師など多くのスタッフと共に、多彩なプログラムを運営しております。

年月を経て、院内発表、ケースカンファレンス、利用者の様子などから、作業療法そのものの認識が深まり、今ではチーム医療の重要な担い手となっています。



## 表情豊かなプログラム

当院で行われているプログラムは、参加形態から、オープン、セミクローズド、クローズドグループに分けられ、一日平均140名の利用があります。その他に病棟で行う個人作業療法、季節行事などのレクリエーションがあります。プログラムの開始前と終了後には、担当スタッフ全員でミーティングを行います。

▼オープングループ：プログラムの時間中、誰でも参加できます。体力向上やストレス発散を目的にスポーツやカラオケ、映画鑑賞などを行

者一人一人の生きがいとケアに貢献する役割が、今後ますます期待されています。

リハビリ科にあるご意見箱には、「みんなでやる作業が楽しい、作業療法で友達づくりをしたい、社会復帰の為にやつていこう」という意欲が湧く」など嬉しい意見が寄せられています。一方で、「陶芸もやりたい、土日もやって欲しい、新しい種目を増やして欲しい」などの要望もあり、現在もプログラムを考案中です。みなさまの声を大切に、スタッフ一同、一層の充実を目指していきます。